

第3回「第20回アジア競技大会名古屋市レガシー・ビジョン有識者懇談会」における主な発言

【全体について】

- SDGsへの貢献については、東京オリンピック、パラリンピック、大阪万博に負けずにこのアジア大会でSDGsの推進を進めて行くという事は重要だ。
- ビジョンを見た子どもたちが「こんな幸せな形になるんだ」というイメージを持てるように、伝え方、文言などを考えた方が良い。

【まちの姿1について】

- 子供のスポーツを充実させるために、地域のスポーツ団体と教育・保育機関との協力を通しコミュニティやネットワークを上手く作っていくことができると良い。
- 地域活性化に関して、「トップアスリートを通じて地域の活性化を図ります」と記載されているが、市民がトップアスリートと触れ合う機会は少ない。もっと重要なのは、市民のコミュニティが主体となってスポーツへの関心を高め、スポーツに触れる機会を設ける等といった視点である。
- 様々な地域に競技会場が設置されるので、競技会場に人が集まった時に競技だけでなく、何をどんな仕掛けで見せるのかといった点を意識することが地域活性化につながる。
- 大会を支える部分では、ボランティアの参加が必要になる。参加したボランティアが大会終了後も継続してスポーツに関与していく形を取ることができれば、ひとつのレガシーとして残っていくのではないかと。そのような関わりの中で、新しいコミュニティが形成されることによって、地域が活性化するようなシナリオが描けたらよい。
- 日常生活でスポーツを取り入れることはハードルが高い。体を動かすには意識の変化が重要で、体を動かそうと思う意識を生み出すような技術的な支援をする。例えば、歩行困難者への技術的な支援などがある。
- アスリートと地域との交流する機会を増やすことで、他国への関心や子どものスポーツへの関心を促す他、市民活動の活発化にも繋がる。
- 「トップアスリートとの交流」というと、野球やサッカー等の競技人口が多いものを思い浮かべやすいが、アジア大会の競技数からも様々なスポーツにおいての実施、触れる機会を作っていけると良いのではないかと。

【まちの姿2について】

- 名古屋は「名古屋の魅力はこれだ」という発信が欠けている。もう少し魅力発信について踏み込むとインバウンドの促進や名古屋に住み続けたいと考える人口が増加するのではないかと。
- アジア競技大会をどのように誇りと魅力に繋げるのかというシナリオづくりと、この機会を活かした誇りと魅力の創出・発信という2点があり、この2点をどのように切り分け、またどのように関連付けながらストーリーを作っていくのか考える必要がある。
- 在住者では、意外と魅力に気づかない。外国人の感覚や目線で名古屋を掘り下げていくと思わぬ発見があるのではないかと。
- 名古屋の魅力となると武将文化や名古屋めし等がよくあがるが、文化や芸術など幅広く他の分野における魅力もアピールしていくべきではないかと。地域性の問題もあるかもしれないが、住む人たちが地域の良さをアピールしない傾向があり、そのような体制が名古屋には欠けている。
- アスリートの支援は、決められた競技ばかりでマイナースポーツにはなかなか推進されないため、幅広い競技に目を向けていくべき。

【まちの姿3について】

- 多様な人々が住み続けたいと思えるまちになると、それが新しい名古屋の魅力につながる。
- 共生社会の推進では、今後、AIやロボットの活躍する場となる。2026年には先端技術がかなり進歩しているので、人とAI、ロボットの共生が大きなテーマになっていると思う。
- 共生社会の推進では、スポーツや健康が人生にとって重要であることに着目し、それらを通して交流を深めるために大会の開催前、開催中、開催後にどのような取り組みを行うのか考えるべき。
- 人権推進施策について力を入れて取り組んでいてもらいたい。
- 「名古屋がこの分野でアジアのハブ都市になる」など何らかの分野でリーダーになる気概を持って国際交流を推進していけると良い。
- 国際的に通用する都市になろうとするならば、もっとスピード感を持って国際感覚と多様性を尊重する意識を取り入れてほしい。
- 多様な価値観や多様な考え方、多様な幸せの追求をベースにした取り組みをどう進めていくのかが重要。

【まちの姿4について】

- 名古屋市ではテクノロジーのショーケースをつくり、そこに参加する企業や趣旨に賛同いただける企業に協賛してもらおう。そういった場をつくる取り組みを進めるのも面白いのではないか。
- イノベーションを生み出していくためには、海外からの高度な人材の受入れ環境整備も重要である。
- 2026年には低炭素ではなく、脱炭素を意識しても良いのではないか。
- 循環型のまちづくりには技術面のだけでなく、どのようなまちを作っていくのかを考えることは重要である。
- 大会の施設整備に関しては、ハードの充実ではなく、ソフトウェアがどれだけ充実しているかが重要となる。
- 防災性・利便性を備えた都市機能の強化に関しては、多様な人々に対応できる仕組みづくりが必要である。
- 東京オリンピックの選手村では、水素エネルギーを使用するが、実際このエネルギーがどうであったかを検証して、アジア競技大会に上手く反映できるか検討する必要があると思う。
- 環境問題に関しては、大会の開催をきっかけとしてどのような対策を行うことができるのか検討する際に、行政だけではなく市民と選手がその問題にどのように関わり合えるのかといった視点を入れてもらいたい。
- 市民とトップアスリートの交流は大会後も繋げていくべき重要なものである。その点も鑑みて、十分に安全が確保された空間で市民と選手、関係者が交流できるよう、高いセキュリティとコミュニケーションを両立した選手村が必要である。